

令和2年7月29日（水曜日）

足立参院議員

3か年対策後も継続必要

2020年7月豪雨踏まえ
特別委で質問
5か年計画作成を

自民党の足立敏之参院議員は28日に開かれた参院災害対策特別委員会で、2020年7月豪雨など頻発している激甚な災害を踏まえ今後の防災・減災対策について質問した。写真。最終年度を迎えた防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策（18～20年度）について「引き続き継続して計画的に実施する必要がある」と強調。新しい計画の必要性を指摘し「5か年計画ぐらいに作り上げ、進めてほしい」と訴えた。

武田良太防災担当相は質問に対する答弁で「災害が増している。まずは3か年激甚化、多発化する中、年々緊急対策の取り組みを進め



ていく」方針を示した。17日に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針2020（骨太の方針）」で

3か年緊急対策後の強靱化の方向性を盛り込んだと説明。「中長期視点に立つて計画的に取り組む。これを

実行に移すため、必要、十分な予算を確保して着実に進める」と述べた。

足立氏は7月豪雨で甚大な被害を受けた熊本県人吉市や岐阜県下呂市などの被災状況を報告。国土交通省時代、川辺川ダムを前提に河川整備基本方針の策定などに携わってきた経験を踏まえ「ダムがあれば被害を軽減できたのではないだろうか。今後さらに地球温暖化の進展に伴い水害が激甚化することを考えれば、今回被害の大きかった人吉市や球磨川沿いの街の再生とあわせて、ダムを含め抜本的な治水対策を検討すべきだ」との見解を示した。